



山陽小野田市 中学生海外派遣事業

パネル展

主催：山陽小野田市 共催：山陽小野田市国際交流協会

市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



くらまし あいな
倉増 あい菜

(竜王中学校2年)

将来の夢への第一歩となり忘れられない最高の思い出



私は今回オーストラリアでたくさんの素晴らしい経験をしました。一日目。人生初めての飛行機はワクワクしていたけど、耳が痛かったです。そして、家族との別れもすごく悲しかったです。二日目はオーストラリアの学校に行きました。学校で印象に残ったのは、メイクやスマホ、お菓子やピアスなど何もかも自由に驚きました。日本とは違ってランチの前にスナックタイムがあったのも驚きでした。そして遠足で動物園に行った時、コアラの臭さと可愛さがものすごく、衝撃でした。ホームステイ先では、日本の和食を知ってもらおうとお米とお味噌汁を持っていったのですが作る前に食べてしまっていたようで、面白いハプニングが起こりました。最終日のさよならパーティーでグットタイムをみんなで歌いました。一生忘れられない思い出の一曲となりました。そして日本に戻ってくると、家族と会った時の安心感と、日本の暑さにびっくりし、汗がとまりませんでした。

このように、12日間という短いようで長い日々は、将来の夢への第一歩となり、忘れられない最高の思い出となりました。行かせてくれた家族、引率の方、市役所の方、ホストファミリー、オーストラリアの学校の先生などたくさんの方に感謝し、この経験を胸に、将来の夢に向かって進み続けます。私は今回、海外派遣に行ったことを誇りに思って、たくさんの方に面白い出来事や楽しかった出来事、辛い出来事を伝えようと思います。



オーストラリア モートンベイ 訪問記



おりぐち りおん
折口 莉音

(小野田中学校3年)

私のターニングポイントとなった10日間



今回のオーストラリアでの生活を通して一番に感じたことは「伝える気持ちが大切」ということでした。「英語が話せないから伝えられない」ではなく、知っている単語やジェスチャーを使って一生懸命に気持ちを伝えれば、相手もそれに応えようと一生懸命理解してくれました。正直、最初は英語も話せないし、嫌われたらどうしようなど不安な気持ちは沢山ありましたが、オーストラリアの人は本当に優しく、なんの偏見も持たず沢山話しかけてくれました。日本語が話せない人達も簡単な単語やジェスチャーで一生懸命に伝えようとしてくれました。そんな姿を見て国や文化、国籍が違って同じ人間なんだから大丈夫という気持ちになりました。ホストファミリーや現地の人達の優しさに支えられ、充実した日々を過ごすことができました。そして何よりこれからもっと英語力を身につけたいという気持ちになりました。私のターニングポイントとなった10日間でした。





オーストラリア モートンベイ 訪問記



いしかわ さや
石川 紗夜

(高千帆中学校3年)

周りの人への感謝を大いに感じる事が出来ました。



私はこの海外派遣で、オーストラリアの良さをたくさん知り、周りの人への感謝も大いに感じる事が出来ました。

海外で現地の方と生活を共にし、現地のスクールに通う中で文化の違いや言語の壁に悩まされ私や他の派遣生も最初は不安でいっぱいでした。

しかし、滞在先ではホストファミリーが、スクールでは新たに出来た友達や派遣生、引率者の方がたくさんサポートしてくれました。現地の方々にとっては当たり前と思う事でも私にとっては一つ一つが驚きでオーストラリアの魅力をたくさん見つける事が出来たし、現地の生徒さんの明るさが学校全体に表れていてとても素敵な学校だと感じました。

このように、魅力をたくさん見つけることができ、たくさんの方の力を借りて十日間を過ごせたこの機会を、自分自身のスタート地点だと捉え、これからの自分に活かしていきたいと強く感じました。





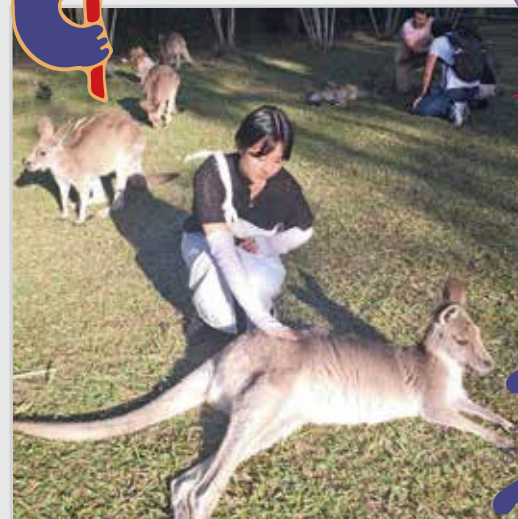
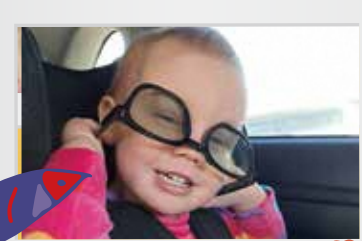
オーストラリア モートンベイ 訪問記



しょうじ ななみ
正司 七美

(高千帆中学校3年)

空港のグランドスタッフになることが私の夢です。



私は海外派遣されることが決定した時、海外に行くこと、飛行機にのること、日本語のない暮らしをすること、何もかもが初めてのことで不安でいっぱいでした。でもそれ以上に、楽しかった思い出や学んだこと、感じたことがたくさんあります。まず、私がこの海外派遣事業に応募したのは将来の夢の第一歩として自分の四年生から習っている英語を生かして、空港でお客様に様々なサービスを提供するグランドスタッフになることが私の夢です。グランドスタッフになるには英語で会話をする技術はもちろん、コミュニケーション能力や日本と他国との違いを理解しておくことが必要です。オーストラリアに行って、自分の知らない世界を知る良いチャンスだと思いました。日本語が伝わらない生活をするのはとても大変でした。自分の伝えたいことを頭の中で瞬時に英語に変えて会話をするのは想像以上に難しかったです。また、現地の人達の英語はとても速く、一回で聞き取るのは大変でした。そんな中で大切だと思ったのは「とにかく伝えようとする」ことです。完璧な英語が使えなくても表情やジェスチャーで一生懸命伝えようとするれば相手は理解してくれるし、なにより分かってもらえたときに嬉しかったです。そして笑顔は世界共通言語だと改めて感じました。この十日間で英語のスキルを大幅にレベルアップさせることはできなかったかもしれないけど自分の実力を把握することができてとても良い機会になったと思います。また、日本の生活とたくさん違うところがあると知ることができました。これからは今まで以上に英語の勉強に力を入れ、今回学んだことを存分に生かして、笑顔を武器にできるグランドスタッフを目指したいと思います。今回、私にこのような貴重な機会を与えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。



オーストラリア モートンベイ 訪問記



たけもと りこ
竹本 理瑚

(高千帆中学校3年)

様々な文化の違いを体験することができました。

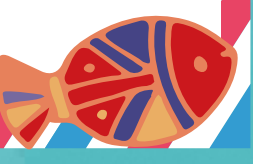
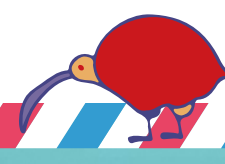


私はこの事業に参加して様々な文化の違いを体験することができました。

まず学校生活では一回の授業が70分ありました。日本の約1.5倍あってびっくりしましたが毎日の授業が新しいことばかりで新鮮で楽しかったのであつという間でした。授業の内容は中学校で基本的な知識を身につける日本とは違い、専門的なことを学んでいました。日本語やプログラミング、私のバディは同い年の中学3年生ですがビジネスを学んでいると言っていました。生徒達は日本と同じで自分のノートパソコンを持っていました。日本語の授業では日本が好きでひらがなだけでなく漢字やカタカナまで書ける生徒がいて驚きました。私が現地で通ったスクールでは色々な人種がいました。その国のダンスを踊って見せてくれたり日本語が喋れる子は喋りかけに来たりしてくれました。私のバディもハーフでした。ランチタイムが2回あったのも驚きでした。帰宅時間が2時前後ぐらいで早かったので放課後にショッピングに行ったり、近くのビーチにお散歩に行ったりもしました。

ホームステイ先はとても広く覚えるのが大変でした。衝撃を受けたのがシャワーを浴びる早さです。家にお風呂が3つあり私はバディのローラと同じお風呂を使っていたのでローラが入る前に一声かけてもらって5分もしないうちに出てきました。日本ではつい長風呂してしまっていたので気をつけましたが10分以上かかってしまいました。でも特に短くしてとは言われませんでした。そして朝ご飯とお昼ご飯は自分で用意するスタイルでした。日本のお弁当のようなものではなく、パンにお菓子やフルーツを持っていきました。家で過ごしていてすごく感じたことが子供は自分のことは全部やってお母さんやお父さんが子供に怒るということが全くありませんでした。そして私のバディはゴミが落ちていたら拾ってゴミ箱まで捨てに行っていました。自立していてとても思いやりがある子で見習おうと思いました。

この事業に参加してすごく世界が変わりました。いままで小さなことで悩んだり自分のことをなかなか好きになれなかったり、でもオーストラリアの人たちは心の底から私を肯定してくれました。おかげで自分に少し自信がつきました。私のお母さんや英会話の先生は海外に行くと考え方が変わるよ、と言っていました。本当に変わるのかと少し疑っていましたがそれは本当でした。そして今回の海外派遣でネイティブと会話をしてみても喋るのに時間がかかり聞き取るのが大変だということがわかりました。現地で生活すると段々慣れてきますが自分の足りない能力は聞き取る力と瞬間的に英文を作る力だと気づいたので将来海外で働きたいという夢のためにも英語の練習も頑張っていきたいと思います。





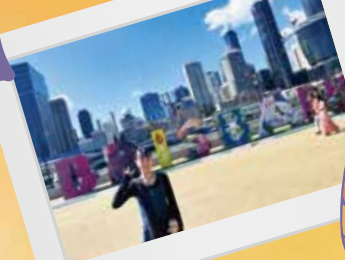
オーストラリア モートンベイ 訪問記



はせがわ ももこ
長谷川 桃子

(高千帆中学校3年)

将来はオーストラリアで獣医師として働きたい



この二週間は私にとってかけがえのない宝物です。オーストラリアに来て私はたくさんの経験をしました。学校は、もちろん外国人の生徒でいっぱいだったけれど私は不安より仲良くなりたいというワクワクが勝ちました。授業や遠足など新しいことがいっぱいですごく楽しかったです。みんなでビーチで素敵な写真を撮ったことは私の思い出です。そしてホストファミリーとの時間は私を成長させるきっかけの一つとなりました。ナイトドライブに行ったり、スポーツの試合を観戦したり、皆でバレーをしたりと素晴らしい思い出がたくさんできました。最初はうまく伝わらないことが多く辛かった時期もあったけれど優しく寄り添ってまるで本当の家族のように接してくれたファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。オーストラリアの人たちはすごく親切で学校などでも毎日声をかけてくれて本当にうれしかったです。この経験を通して私は将来のことが少しだけ明確になった気がします。将来はオーストラリアで獣医師として働きたいと思っています。これからの生活でも人と人との繋がりを意識したり、英会話の力を磨いたりしたいと思います。そしてまたオーストラリアに行ったときに周りの外国の人たちと上手くスムーズに会話を楽しんだり住んでみたいと思います。二週間本当に素晴らしい体験をすることが出来た私の人に感謝し、この経験を胸に、将来の夢に向かって進み続けます。本当にありがとうございました。



オーストラリア モートンベイ 訪問記



やまね あいと
山根 蒼士

(厚狭中学校2年)

不安を恐れず、何事にもチャレンジすること



僕がこの海外派遣で特に大切だと思ったことは、不安を恐れず、何事にもチャレンジすることです。

僕は最初、相手と話すときに伝わるかどうか不安という気持ちが勝ってしまい、あまり会話を続けることが出来ませんでした。しかし、ホストファミリーやハイスクールの人たちと関わっていくうえで、自分の英語が伝わるかどうか不安だからという理由で話しかけないままじゃ何も変わらないということが分かりました。積極的に話しかけたりすることで自分の笑顔が増え、オーストラリアの生活もより楽しく感じられるようになりました。

ハイスクールで思い切ってすれ違う人に挨拶をしたり、手を振ってみたりすると、オーストラリアの人たちの優しさや陽気さが伝わり、思い切って挑戦して良かったと思えました。また、人との関わり方において、オーストラリアの人たちを見習いたいと思いました。

この海外派遣で様々な人や数え切れないほどの貴重な経験に出会うことが出来ました。この貴重な経験を大切に、様々なことに活かしていきたいです。また、この海外派遣を支えてくれた沢山の人に対する感謝の気持ちも忘れないようにしたいです。

市中学生海外派遣事業



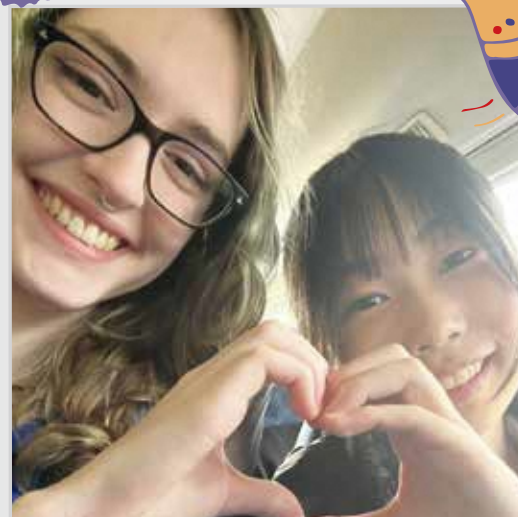
オーストラリア モートンベイ 訪問記



こばしがわ ゆり
小橋川 友梨

(埴生中学校2年)

勇気を出して、この派遣に参加して本当に良かったです。



オーストラリアと日本の学校は何もかもが違います。聞くのも、話すのも、見るものも、全てが初めてで本当に新鮮な毎日でした。オーストラリアのハイスクールは「自由」という印象が私はとても強く、みんな生き生きと自分の個性を活かしながら、学校生活を送っていました。ハイスクールの生徒達は私達を見かける度にみんな「こんにちは!」と言って手を振ってくれました。本当に嬉しかったです。私が聞き取れなくて何度も聞き返した時も、教室がどこか分からなかった時も、お菓子の袋の開け方が分からなかった時も、嫌な顔一つせず本当に親切に接してくれました。ホストファミリーやハイスクールの生徒達とは今でも連絡を取り合っていて、「日本に行きたい」「また会いたい」と言ってくれます。優しい人達に囲まれて、笑顔で10日間を過ごすことができました。勇気を出して、この派遣に参加して本当に良かったです。一生忘れない思い出になりました。



市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



ふじやま まさゆき

藤山 雅之

山陽小野田市教育委員会
教育部長



たなべ みどり

田邊 碧

山陽小野田市
市民活動推進課

生徒の成長を間近で見ることができて光栄でした。

私は厚狭駅を出発する前に派遣生徒に、「私はこの海外派遣事業に参加した皆さんの先輩方にお会いすることがありました。先輩方は口々にこの事業が人生のターニングポイントになったと言っています。目に見えないそれがこれからの10日間にあることはすごいこと。愛だとか恋だとかこれも目に見えない素晴らしいものだけど何時するかわからない。ぜひこの10日間を大事に前向きに取り組んでほしい。」と伝えました。そして帰国後厚狭駅で解散する前に派遣生徒に次のように聞いてみました。「何か自分の中で大きく変わったことがあった？」かと。生徒たちの反応は様々でしたが、この海外研修を通して生徒の皆さんが感じたこと、学んだことをこの先の人生で活かせる時がくることを願っています。今は無事に派遣生徒をご家族のもとへ帰すことができ、ほっとしています。生徒の成長を間近で見ることができて光栄でしたし、自分の仕事のモチベーションにも繋がりました。オーストラリアで見てきたこと、感じたことを、今後の業務に活かしていきたいです。最後に、温かく迎えて下さったモートンベイ市の皆様、派遣生徒のみなと、生徒を預けていただいた保護者の皆様、学校関係者の皆様、派遣事業を実施していただいた市民活動推進課の皆様、本事業に参加するにあたり快く背中を押していただきました、長友教育長と教育委員会事務局の皆様ほかこの事業を支えてくださった皆様に感謝申し上げます私の報告といたします。

山陽小野田市教育委員会 教育部長 藤山 雅之



モートンベイ市で過ごす時間はどこを切り取っても素晴らしいものですが、特に今回私の心に残ったのは、本事業を受入れてくださっているレッドクリフステートハイスクールのジェシカ先生のご実家に訪問させていただいたことです。引率者は基本的に派遣生徒のホームステイ先に行くことはないのですが、オーストラリアの一般家庭におじゃまするのは初めてでした。ジェシカ先生のご実家では25年ほど前からさまざまな国や地域の留学生のホームステイを受け入れてこれ、その数は40人になるといいます。ご自宅を留学生との思い出話とともに母様に案内していただきました。階段の踊り場には、留学生との記念写真が壁一面に飾られていました。ホストファミリーとして大きな愛情をもって留学生を受け入れてこられたことがひしひしと伝わってきて、感動しました。同時にこれまで本市がお世話になった全てのホストファミリーの皆様に感謝と敬意の念を抱きました。

山陽小野田市市民活動推進課 田邊 碧